

結 果 の 概 要

1 出生数は減少

出生数は102万9816人で、前年の103万7231人より7415人減少し、出生率（人口千対）は8.2で前年と同率となった。合計特殊出生率は1.43で前年の1.41を上回った。（第1表）

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、14歳以下及び20～34歳の各階級では前年より減少したが、15～19歳及び35歳以上の各階級では増加した（第4表（1））。

合計特殊出生率の内訳を年齢（5歳階級）別にみると、20～29歳の各階級では前年より低下したが、15～19歳及び30～49歳の各階級では上昇した。なお、30～34歳の階級が最も高くなっている。（第5表（1））

出生順位別にみると、出生数はいずれの出生順位についても前年より減少した。合計特殊出生率の内訳ではいずれの出生順位についても前年を上回った。（第4表（2）、第5表（2））

母の年齢（5歳階級）別と出生順位別を併せてみると、出生数は15～19歳の階級では第1子及び第3子以上、35～39歳の階級では第1子及び第2子が前年より増加した。40歳以上の各階級については、いずれの出生順位についても前年より増加した。合計特殊出生率の内訳は15～19歳の階級では第1子、25～29歳の階級では第3子以上が前年を上回った。30～49歳の各階級については、いずれの出生順位についても前年を上回った。（第4表（3）、第5表（3））

2 死亡数は増加

死亡数は126万8436人で、前年の125万6359人より1万2077人増加し、死亡率（人口千対）は10.1で前年の10.0を上回った（第1表）。

死因別にみると、悪性新生物の死亡数は36万4872人で、死亡率（人口10万対）は290.3であり、死亡総数の28.8%を占めて死因順位の第1位となっている。第2位は心疾患、第3位は肺炎である。（第6表）

年齢調整死亡率（人口千対）は男5.1、女2.7で、前年より男は0.1下回ったが、女は同率となった（第1表）。

3 自然増減数は減少

出生数と死亡数の差である自然増減数は△23万8620人で、前年の△21万9128人より1万9492人減少し、自然増減率（人口千対）は△1.9で前年の△1.7を下回り、数・率ともに7年連続でマイナスとなった（第1表、第2表－1、第2表－2）。

4 死産数は減少

死産数は2万4102胎で、前年の2万4800胎より698胎減少し、死産率（出産（出生＋死産）千対）は22.9で、前年の23.4を下回った（第1表）。

5 婚姻件数は減少

婚姻件数は66万613組で、前年の66万8869組より8256組減少し、婚姻率（人口千対）は5.3で前年と同率となった（第1表）。

6 離婚件数は減少

離婚件数は23万1383組で、前年の23万5406組より4023組減少し、離婚率（人口千対）は1.84で前年の1.87を下回った（第1表）。